

講演会 1 : 「介護対応住宅について」

講演会 2 : 「生活習慣病の予防・管理のための生体指標とその計測

～血圧管理を例に～

日本人間工学会関西支部では、以下の講演会を企画いたしました。第一部は講師といたしましてパナホーム株式会社より大元尚弘先生をお招きして、「超高齢社会に対応した家づくりの在り方」をテーマに講演していただきます。また第二部はオムロンヘルスケア株式会社より佐藤博則様をお招きして、「ビックデータとヘルスケア」をテーマに公演していただきます。

研究者のみならず、企業での商品企画・技術開発のご担当者、そしてこれから社会で活躍する学生の方々にも広くご参加いただければ幸いです。

[日時] 2014 年 3 月 22 日 (土)
14 : 30～15 : 30 第一部 講演会
15 : 30～16 : 30 第二部 講演会

[会場] 大阪府立大学 I-site なんば 大阪市浪速区敷津東 2 丁目 1 番 41 号 南海なんば第 1 ビル
2 階カンファレンスルーム C1
(南海電車線路沿いの南海本社ビル内)

※建物北側の大阪府立大学専用入口からお入りください。

<http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/map/index.html>

[第一部テーマ] 超高齢社会に対応した家づくりの在り方

[第一部講師] 大元尚弘先生 パナホーム株式会社

[講演概要] 「超高齢者社会に対応した家づくり」をテーマに、パナホーム株式会社の取組や介護対応住宅の考え方やポイントを紹介する。

[第二部テーマ] 生活習慣病の予防・管理のための生体指標とその計測 ～血圧管理を例に～

[第二部講師] 佐藤博則先生 オムロンヘルスケア株式会社

[講演概要] 高血圧の診断に使われる血圧値は、診察時の値から家庭での値に軸足が移ってきた。血圧は生活習慣や環境の影響を受け常に変化し、診察室での値はそのひとつにすぎず、脳や心臓における血管イベントの発症を抑制する目的においては、不十分であることがわかったからである。

さらに、生活習慣病の予防と管理のためには、毎日の血圧を計測し、適切な値に保つことができているか観察することになるが、同時に生活習慣や環境の変化とともに記録された膨大なデータからはその関係も垣間見えてくる。生活習慣病の予防や管理のために必要な、生活習慣や環境の改善につながるその一例について紹介する。

参加費

日本人間工学会会員 (関西支部会員含む)・学生 無料

非会員・非学生 ¥500 (当日受付にてお支払い下さい)

参加申込

氏名、所属、連絡先お電話番号、会員・非会員・学生の別を E-mail または FAX にて関西支部事務局までお送り下さい。会場の収容人数に限りがございますので、事前申込にご協力お願いいたします。

2013 年度日本人間工学会関西支部総会・春季講演会

大元尚弘 略歴

パナホーム株式会社 戸建住宅事業部

数多くの「在宅介護住宅」「医療・福祉建築」の設計・監理を実施し、14 年前から医療・福祉建築事業部において商品開発を担当。又、自社運営の老人ホーム「ケアビレッジ千里古江台」の設計、監理を担当し、施設サービス部長、生活相談室長を経て現在に至る。

現在は、国交省が推進する「スマートウェルネス住宅」（安心・健康・省エネ・バリアフリー）等の開発を推進中。

資格：

- ・一級建築士
- ・福祉住環境コーディネーター 福祉用具専門相談員
- ・住宅性能評価員
- ・（元）日本医療福祉建築協会員
- ・京都府長岡京市 地域健康福祉委員 等

受賞歴：

- ・福祉建築アイデアコンペ 優秀賞（日本建築家協会主催）
- ・住まいのインテリアコーディネーションコンテスト
「生涯配慮の住まい」支部長賞（インテリア産業協会主催）
- ・国交省 高齢者居住安定化モデル事業
「千里ニュータウン居住継続安心システム」
「介護報酬債権担保付借上げスキーム・ケア付賃貸住宅事業システム」採択 等

佐藤 博則 略歴

オムロンヘルスケア株式会社 学術技術部

1996 年 筑波大学第三学群工学システム学類卒業

1998 年 筑波大学理工学研究科修士課程修了

同年 株式会社オムロンライフサイエンス研究所 入社

2003 年 オムロンヘルスケア株式会社 転籍

2007 年 京都大学工学研究科機械理工学専攻入学

2011 年 同修了 博士（工学）

現在 オムロンヘルスケア株式会社 学術技術部

【プロフィール】

1998 年筑波大学理工学研究科修士課程修了、株式会社オムロンライフサイエンス研究所入社、血圧計の開発に従事する。2003 年よりオムロンヘルスケア株式会社にて脈波計・中心血圧計の技術開発・商品化に従事し、脈波伝播モデルの研究により 2011 年京都大学工学研究科博士課程修了、博士（工学）取得。現在は、学術技術部にて、生活習慣病に対応した生体計測技術の探索および開発を行っている。